

「 土砂災害から身を守るために 」

鹿児島県 南さつま市立坊津学園 7年 有馬 実心^{ありま みこ}

みなさんは、ふだんからニュース番組を見ますか。そして今、日本ではどんなことが起こっているか知っていますか。最近では、大雨や台風などのニュースをよく見かけます。私はニュース番組を見ていてあるニュースが気になりました。それは、九州から中国西部にかけて大雨により色々な場所で土砂災害が起きていることです。

みなさんは、8月10日に九州から中国西部地方にかけて線状降水帯が発生したことを知っていますか。線状降水帯が発生したことにより、熊本県では1時間に120ミリ以上の大雨が降り、記録的短時間大雨情報が発表されました。そして、11日には大雨特別情報が発表されました。家に土砂が流れ込んできてしまったという被害もあったそうです。また、家から避難しようとした際に、土砂崩れに巻きこまれて亡くなってしまった人もいました。熊本県だけでなく大雨により他にも、鹿児島県、福岡県などでも被害がありました。床下や床上しん水などの住宅被害や人が亡くなった人、行方が分からなくなった人、安否が不明の人がいたりしています。

私は、このニュースを見て、土砂災害は一瞬で人の命や自分の住む場所、財産を奪ってしまう恐ろしい災害だと思いました。また、土砂災害は一瞬で自分の住んでいる場所に到達してしまいます。土砂災害の危険がせまったときは、家族で事前に話し合っただけで決めた避難場所に早く避難することが大切だと考えました。

そこで、土砂災害から身を守るためにできることはないかと3つ考えました。1つ目は、土砂災害の特徴を知っておくことだと思います。土砂災害が起こる前には、木や電柱がかたむいたり、地面にひび割れができたり、がけに割れ目が見えたりするそうです。土砂災害には主に土石流、がけ崩れ、地すべりの3つの種類があり、それぞれの災害には特徴があります。土石流は大雨などで山や川の土砂や石が水と一緒に流れ下る現象で、がけ崩れは急な斜面が雨や地震の影響で崩れ落ちる現象、地すべりは地中の滑りやすい層を境に、斜面がゆっくりと動き出す現象です。その中でも最も危険なのは土石流です。土石流は短時間で広範囲に被害をおよぼすため、命に関わる危険性が最も高いと言われているそうです。2つ目は、ハザードマップを確認することです。ハザードマップを確認し、自分の住んでいるところは安全か、どこが危険なのか、どのようにして避難すれば安全なのかを確認できます。県や市のホームページにのっているのので、インターネットですぐ確認することができます。また、日本全国では、土砂災害警戒区域や特別警戒区域として指定されている場所は約622,000箇所もあるそうです。鹿児島県は山地や台地が多く、急斜面の破壊が発生しやすい地域だそうです。3つ目は、防災グッズを準備しておくことです。防災グッズには、飲料水、非常食、けいたいトイレ、情報収集するためのラジオや充電器、そして常備薬などを入れてバッグに準備しておくといいそうです。また水は飲料水として、1人当たり1日3リットルの水が必要といわれています。最低3日分として9リットルの備蓄が必要で、可能であれば1週間分用意しておくといいそうです。

土砂災害は人の命や住む場所、財産を一瞬で奪ってしまう危険な災害です。そして土砂災害はいつ、どこで起こるか分かりません。自分の家には迫ってこない、大丈夫と安心せずに早めの避難が大切だと思います。また、事前の準備も大切だと思います。ハザードマップで危険な場所や避難経路を確認しておきたいです。ですが、ハザードマップにのっている以外にも危険な場所はあると思います。だから、実際に避難するときの道を歩いてみて危険な場所はないのか確かめることも大切だと思います。